

十文字学園女子大学人間生活学部紀要第4巻 2006年

## 幼稚園における保育方法と保育者による 発達評価の関連(2)

### A Study on the Relationship between Teaching Methods and the Teachers' Evaluation of Child Development in Preschools (2)

関口はつ江  
Hatsue SEKIGUCHI

長田 瑞恵  
Mizue NAGATA

野口 隆子  
Takako NOGUCHI

#### 要約

本研究は、子どもの発達状態の評価において、保育方法がどのように影響しているかを明らかにすることを目的としている。保育方法を3タイプ(自発活動型、中間型、課題活動型)に分け、保育者の評価結果の子どもの相対的な位置の縦断的変化の吟味を行い、保育タイプの特徴が評価に反映していることを明らかにした。さらに評価に影響する保育者の評価観点を明確にするために保育タイプ毎に評価結果の因子分析を行い、3タイプに異なる因子を見出した。ここから、保育者は実践している保育の状況に即して子どもの発達評価を行っていることを明らかにすることが出来た。今後、このことの子どもの発達の過程への影響を明らかにすることが課題である。

#### Summary

This study was intended to find out how teaching methods effect evaluation of child development. In the study, teaching methods were categorized to three types (Spontaneous activity type, Middle type, Assigned activity type). Through a child's time differential change in a group of children, it was found out that features of a teaching type reflect

---

十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科

Department of Early Childhood Care and Education, Faculty of Human Life, Jumonji University

キーワード：保育者の発達評価 保育方法の違い 評価の観点

Key words: Teachers' evaluation of child development Differences of teaching methods Perspective of evaluation

evaluations. Furthermore, result of evaluation was analyzed for finding factors by each teaching type to definite teachers' perspectives of evaluation. Three different types of factors were brought out. From this research, it is explained that teachers evaluate a child's development according to teaching situations. In the future, effect of teachers' evaluation on process of a child's development should be better understood.

## 研究目的

本研究は異なる保育実践方法の幼稚園における子どもの発達評価を担任保育者が9ヶ月を隔てて行ったものを縦断的に捉え、園生活の中で子どもの発達の経過をとらえるとともに、園の保育実践方法による評価の仕方の違いを明かにしようとするものである。そこから、保育実践において保育者が子どもの捉え方に関して配慮すべき事項を明らかにし、保育の改善に役立てることを目的としている。

前報においては、園タイプを一斉活動時間、課題活動の種類等に基づいて3タイプ（Aタイプ課題活動型、Bタイプ中間型、Cタイプ自発活動型、）にわけて、1学期（6月）の評価の仕方を横断的に比較した結果を報告した。園の保育方法の違いによって保育者による同じ時期の幼児の発達評価が異なること、すなわち、3歳児期では課題活動型の園の評価が高く、自発活動型の園の評価が低く、中間型はそのあいだにあること、4歳児期では課題活動型の評価が高いが自発活動型と中間型の差が減少すること、5歳児期では中間型が高い傾向があるが、園タイプによる評価差は減少することが認められた<sup>(1)</sup>。

今回は前回の結果をさらに検証するために、同一年度内の縦断的な評価の変動から、子どもの集団内の評価位置の変動が園タイプによって異なるかどうか、すなわち、それぞれの子どもの相対的な発達の位置が集団内で固定化されているか、固定化せず保育展開によって評価が変わり子どもの位置が動いていくのかについて報告する。さらに、保育者の評価観点が園タイプによって異なるかどうかを検討し、保育者の幼児評価と保育実践とがどのように関係しているかを報告し、これまで見出されている園タイプによる幼児評価の違いの要因の一つと見られる保育者の評価観点について考察する。

## 研究方法

研究対象及び評価方法 発達評価は、東北、関東、北海道の私立幼稚園9園の園児について、2004年6月、2005年3月の2回、担任保育者によって同一幼児について、同一項目で行われた。評価項目、評価手続きは前報と同じである<sup>(1)</sup>。園タイプの違い、及び対象者内訳は表1、表2に示す。

表1 保育方法の違いによる園の分類

	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
クラス単位の保育時間の長さ（単位：分）	108.0 (36.1)	82.5 (26.7)	28.1(18.6)
定期的な特別課題活動の種類数（単位：個）	4.2 (1.8)	1.5 (0.7)	0.2 (0.4)

注) 括弧内は標準偏差

表2 調査対象園児の内訳

	下位群	中位群	上位群	計
3歳児	131	131	132	394
4歳児	173	176	175	524
5歳児	182	180	184	546
計	486	487	491	1464

注) 単位: 人

## 分析方法

### 1 園タイプ別に集団内相対的位置の変動の検討

- ① 園内(集団内)変動の検討 2004年6月と2005年3月のそれぞれの時点で園毎に各学年集団内の相対的な位置(上位・中位・下位)を求め、個人毎に2時点での変動を検討する。
- ② 全対象群内変動の検討 2004年6月と2005年3月のそれぞれの時点で同一年齢全被験者の中の相対的な位置(上位・中位・下位)を求め、個人毎に2時点での変動を検討する。

### 2 保育者の評定結果の園タイプ別因子分析による評価観点の検討

6分野128項目(A知的25項目 B運動的20項目 C情緒的25項目 D社会的25項目 E生活習慣17項目 F遊び16項目)、5段階評価の結果を、園タイプ別に因子分析(主因子法、バリマックス回転)を行った。

## 研究結果

### 1 園タイプ別相対的位置の変動

#### (1) 同一園内変動

園集団内の1学期(6月)の相対的位置(上位・中位・下位)が進級前(3月)にどう変化しているかを年齢別、園タイプ別に示したものが図1である。

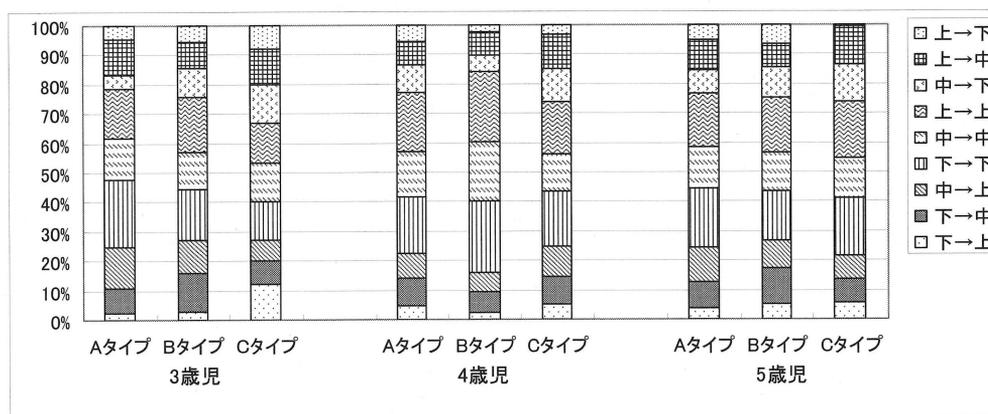


図1 学年毎に学年毎・園タイプ毎に群分けした場合の群変動

図1に見られるように3歳児は自発活動型に変動が大きく、課題活動型は変動が少ない傾向が、4歳児では中間型で変動が少ない傾向があり、5歳児では園タイプによる違いは減少する傾向が認められる。統計的な有意差は3歳児のみに認められた。自発活動型では下位から上位への変動、中位から下位が期待値より多い。課題活動型は下位が下位に止まる割合が期待値より多く、下位から上位へ、中位から下位への変動が期待値より少ない ( $\chi^2(16)=32.39$  ( $p<.01$ ))。

## (2) 全対象児群内移動

園の枠を外して全園児の相対的位置を捉え、6月と3月の変化をみたものが図2である。

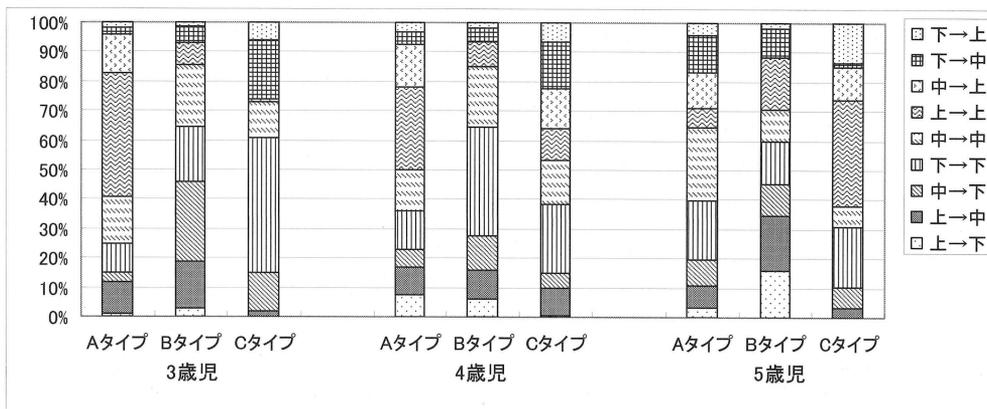


図2 学年毎に群分けした場合の群変動

図2では集団数が大きいために変動が複雑であるため、より分りやすくするために下降、変動ない、上昇の3群に分けてまとめた。変動傾向のまとめを表3と図4に、検定結果を表4に示した。

表3 学年毎 園タイプ× 変動方向

学年	園タイプ	変動方向					
		上昇		変動無し		下降	
3歳児	Aタイプ	36		142	多	31	少
	Bタイプ	5	少	33	少	32	多
	Cタイプ	31	多	67		17	
4歳児	Aタイプ	55		140		58	
	Bタイプ	8	少	78	多	33	
	Cタイプ	55	多	74	少	23	少
5歳児	Aタイプ	65	多	117		44	少
	Bタイプ	18	少	68	少	71	多
	Cタイプ	43		103	多	17	少

注) 変動方向は園タイプの枠を外して学年毎に3群分けしたもの

表4 学年毎の 園タイプ×変動方向の $\chi^2$ 検定 結果

学年	$\chi^2$		自由度
3歳児	40.64	**	4
4歳児	34.46	**	4
5歳児	62.75	**	4

注) \*\* . . . p&lt;.01

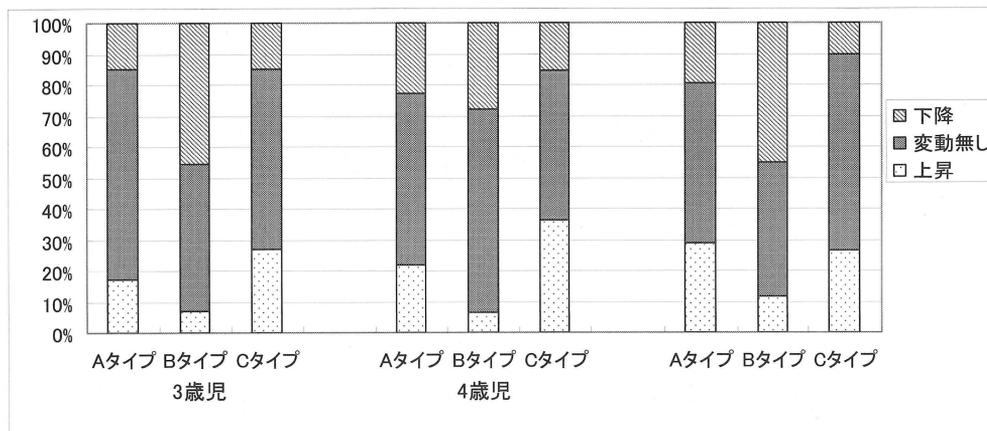


図3 学年毎に群分けした場合の群変動：変動方向を大別したもの

園タイプによって次のような傾向が認められた。課題活動型は3歳児では変動が少なく、5歳児で上昇する子どもが多い。逆に、自発活動型は3歳児、4歳児で上昇者が多く、5歳児では変動は少ない。これは保育者の評価基準の一貫した方向性が園タイプによって異なっていることが反映しているか、または、保育方法の効果が異なる年齢において表われること、言い換えると実際に子どもの育つ時期が異なっていることのいずれかが推測される。中間型では3歳児と5歳児で下降が多くて上昇や変動なしが少なく、4歳児で変動なしが多い。一貫した傾向がつかめず、他の2タイプに比べて異なる評価の仕方が行われているか、または、年度当初の評価は高いが、同一年度内では保育の効果が子どもの発達の变化として表われにくい状況であるのかが推測される。

## 2 園タイプによる評価因子の違い

上記の評価結果の園タイプ差の要因を明らかにするために、園タイプ別に評価結果の因子分析を行った。今回は3月時の評価結果を用いた。

分析結果は表5から表7に示し、対応する評価項目と因子名を表8から表10に示した。

表5 2005年3月 Aタイプ (6因子指定)

項目番号	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
C24	0.76	0.22	0.11	0.15	0.18
C18	0.75	0.17	0.10	0.17	0.16
C16	0.71	0.11	0.16	0.22	0.21
A23	0.66	-0.12	0.32	0.07	0.14
C23	0.66	0.18	0.07	0.24	0.26
C2	0.64	0.26	0.18	0.15	0.11
C17	0.64	0.28	0.14	0.24	0.15
C1	0.64	0.19	0.09	0.26	0.20
C15	0.63	0.19	0.06	0.24	0.18
E13	0.61	0.34	0.26	-0.09	-0.12
D10	0.60	0.31	0.18	0.22	0.25
D15	0.59	0.20	0.38	0.09	0.11
D14	0.58	0.30	0.21	-0.03	-0.03
C10	0.58	0.20	0.18	0.16	0.25
C11	0.57	0.09	0.25	0.21	0.31
C5	0.57	0.15	0.28	0.19	0.34
C21	0.56	0.24	0.23	0.18	0.24
D9	0.56	0.25	0.13	0.25	0.23
D13	0.55	0.32	0.26	0.23	0.26
D20	0.54	0.10	0.06	0.38	0.37
A15	0.53	0.06	0.47	0.22	0.11
C6	0.53	0.27	0.25	0.20	0.16
C20	0.52	0.32	0.02	0.09	0.08
C12	0.52	0.21	0.25	0.13	0.15
D19	0.50	0.11	0.07	0.36	0.24
C13	0.50	0.08	0.30	0.26	0.30
C7	0.50	0.19	0.15	0.29	0.16
C25	0.50	0.23	0.22	0.11	0.12
C22	0.47	0.17	0.13	0.10	0.25
A21	0.47	0.43	0.35	0.25	0.03
C8	0.46	0.11	0.19	0.17	0.42
E4	0.16	0.71	0.21	0.21	0.07
E5	0.17	0.70	0.21	0.17	0.04
E15	0.15	0.68	0.17	0.14	0.09
E2	0.19	0.65	0.25	0.19	0.13
E16	0.21	0.65	0.17	0.14	0.22
E12	0.21	0.65	0.31	0.17	0.16
E1	0.13	0.64	0.17	0.16	0.04
B16	0.14	0.63	0.33	0.16	0.03
D18	0.25	0.62	0.14	0.22	0.12
E9	0.24	0.61	0.15	0.26	0.22
D11	0.26	0.61	0.23	0.22	0.16
E14	0.22	0.60	0.18	0.13	0.23
D17	0.22	0.59	0.31	0.20	0.22
E3	0.18	0.56	0.21	0.23	0.20
F16	0.28	0.55	0.33	0.41	0.15
E10	0.20	0.55	0.11	0.25	0.20
A3	0.28	0.53	0.45	0.21	0.15
A8	0.15	0.52	0.38	0.15	-0.01
A20	0.40	0.47	0.42	0.26	0.01
B17	0.21	0.46	0.34	0.27	0.31
D24	0.36	0.45	0.18	0.32	0.18

表5 2005年3月 Aタイプ (6因子指定)

項目番号	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
A24	0.18	0.36	0.64	0.12	0.27
A1	0.15	0.32	0.62	0.11	0.30
A5	0.18	0.49	0.60	0.15	0.10
A25	0.14	0.23	0.60	0.12	0.45
A17	0.27	0.28	0.59	0.20	0.17
A13	0.21	0.36	0.59	0.19	0.38
A2	0.20	0.36	0.58	0.17	0.43
A14	0.21	0.42	0.57	0.15	0.17
A16	0.29	0.37	0.57	0.19	0.19
A11	0.31	0.42	0.56	0.20	0.16
A18	0.34	0.27	0.55	0.17	0.19
A7	0.21	0.40	0.54	0.31	0.11
A10	0.38	0.28	0.53	0.17	0.07
A6	0.28	0.29	0.53	0.36	0.24
A4	0.22	0.37	0.51	0.27	0.22
A12	0.30	0.37	0.51	0.33	0.30
B6	0.36	0.20	0.50	0.27	0.37
B15	0.17	0.44	0.49	0.22	0.21
B2	0.28	0.33	0.48	0.31	0.21
B14	0.15	0.42	0.45	0.15	0.25
F3	0.13	0.16	0.26	0.70	0.28
F11	0.24	0.28	0.27	0.68	0.28
F13	0.26	0.31	0.27	0.65	0.26
F1	0.10	0.21	0.19	0.65	0.14
F2	0.38	0.08	0.30	0.61	0.07
F10	0.20	0.32	0.17	0.60	0.14
F5	0.22	0.31	-0.02	0.58	0.23
F4	0.39	0.07	0.31	0.58	0.22
F9	0.14	0.27	0.29	0.58	0.23
F6	0.22	0.36	0.16	0.57	0.24
F15	0.18	0.32	0.29	0.57	0.28
F14	0.24	0.48	0.21	0.55	0.14
D1	0.32	0.35	0.15	0.53	0.30
D7	0.34	0.40	0.21	0.52	0.14
D23	0.32	0.23	0.10	0.50	0.33
D2	0.29	0.20	0.04	0.50	0.32
F7	0.46	0.23	0.27	0.48	0.26
D3	0.38	0.34	0.15	0.47	0.36
B10	0.14	0.11	0.12	0.13	0.83
B9	0.24	0.09	0.09	0.21	0.78
B12	0.09	0.15	0.22	0.26	0.73
E11	0.30	0.06	0.07	0.13	0.70
B11	0.15	0.32	0.12	0.19	0.68
B8	0.34	-0.08	0.15	0.13	0.64
B13	0.28	0.06	0.23	0.18	0.61
E8	0.22	0.34	0.26	0.27	0.56
B18	0.20	0.24	0.33	0.29	0.54
A19	0.21	0.20	0.50	0.22	0.51
A9	0.15	0.26	0.44	0.25	0.51
B19	0.11	0.18	0.29	0.34	0.51
B20	0.08	0.20	0.31	0.33	0.50
E7	0.18	0.32	0.32	0.31	0.50
C9	0.41	0.11	0.19	0.12	0.45
C14	0.43	0.09	0.24	0.14	0.45

注) 説明された分散の合計 56.50%

表6 2005年3月 Bタイプ (6因子指定)

項目番号	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
E4	0.78	0.25	0.13	0.16	0.16	0.11
D17	0.70	0.29	0.24	0.22	0.17	0.05
B16	0.69	0.30	0.11	0.23	0.18	0.07
E1	0.68	0.27	0.22	0.21	0.19	-0.07
E15	0.66	0.12	0.37	0.18	0.20	0.06
A8	0.66	0.28	0.08	0.24	0.28	-0.08
B2	0.65	0.30	0.12	0.31	0.17	0.11
E5	0.64	0.31	0.20	0.12	0.13	0.39
B3	0.63	0.31	0.16	0.29	0.21	0.14
B15	0.63	0.34	0.24	0.21	0.26	0.23
B14	0.62	0.40	0.14	0.19	0.18	0.23
D16	0.61	0.36	0.17	0.10	0.13	0.33
B1	0.59	0.31	0.21	0.31	0.11	0.17
D18	0.59	0.23	0.46	0.13	0.05	0.10
E2	0.58	0.42	0.15	0.15	0.19	0.26
B20	0.56	0.18	0.11	0.33	0.08	0.19
E11	0.56	0.32	0.26	0.26	0.09	0.21
A7	0.56	0.55	0.10	0.21	0.32	0.07
B7	0.55	0.28	0.11	0.21	0.14	0.32
E13	0.55	0.25	0.39	0.16	0.21	0.24
E3	0.54	0.45	0.23	0.09	0.12	0.27
E14	0.54	0.22	0.43	0.03	0.08	0.28
E16	0.54	0.14	0.47	-0.01	0.14	0.21
A5	0.53	0.53	0.11	0.14	0.29	0.09
A20	0.51	0.44	0.21	0.27	0.40	-0.08
A3	0.49	0.48	0.13	0.22	0.40	-0.05
A21	0.48	0.44	0.38	0.21	0.29	-0.10
B19	0.45	0.27	0.26	0.09	-0.23	0.24
A25	0.22	0.79	0.26	0.11	0.03	0.16
A19	0.20	0.75	0.25	0.17	0.09	0.02
A16	0.22	0.73	0.32	0.24	0.01	-0.02
A1	0.27	0.72	0.17	0.15	0.14	0.20
A6	0.38	0.71	0.18	0.17	0.17	0.21
A2	0.32	0.69	0.16	0.20	0.17	0.11
A10	0.21	0.67	0.32	0.20	0.04	0.09
A14	0.46	0.64	0.17	0.17	0.19	0.13
A24	0.42	0.64	0.17	0.12	0.36	0.09
A13	0.43	0.63	0.13	0.18	0.35	0.03
A4	0.41	0.60	0.09	0.16	0.33	0.21
A9	0.39	0.60	0.13	0.25	0.27	0.09
B10	0.27	0.59	0.34	0.21	0.04	0.34
A18	0.35	0.54	0.17	0.13	0.23	0.07
E7	0.41	0.54	0.29	0.24	0.04	0.25
A17	0.31	0.53	0.09	0.22	0.40	0.08
A12	0.44	0.52	0.22	0.21	0.37	0.11
A11	0.42	0.50	0.16	0.10	0.35	0.21
B12	0.28	0.50	0.23	0.26	-0.04	0.23
E8	0.40	0.49	0.20	0.23	0.09	0.37
E6	0.26	0.49	0.39	0.20	0.03	0.20

表6 2005年3月 Bタイプ (6因子指定)

項目番号	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
F3	0.27	0.13	0.65	0.05	0.23	0.17
F2	0.12	0.25	0.65	0.24	0.16	0.03
E17	0.10	0.20	0.65	0.31	0.29	0.03
D25	0.42	0.09	0.64	0.05	0.13	0.17
D20	0.06	0.29	0.63	0.31	0.18	0.00
A22	0.08	0.35	0.57	0.10	0.24	0.21
E9	0.14	0.19	0.57	0.48	0.20	0.09
F13	0.26	0.21	0.56	0.26	0.21	0.34
D23	0.32	0.20	0.56	0.24	0.35	0.19
B4	0.48	0.17	0.56	-0.03	0.17	0.19
D9	0.33	0.23	0.55	0.00	0.16	0.20
F8	0.36	0.12	0.54	0.25	0.15	-0.10
D1	0.05	0.27	0.54	0.49	0.01	0.06
D5	0.40	0.19	0.53	0.06	0.20	0.28
F15	0.28	0.19	0.51	0.27	0.28	0.22
C8	0.20	0.10	0.50	0.41	0.32	-0.03
F10	0.20	0.02	0.49	0.32	0.44	0.10
C4	0.40	0.09	0.47	0.25	0.39	0.11
B13	0.31	0.35	0.46	0.30	0.25	0.20
C22	0.14	0.21	0.45	0.26	0.44	0.23
D14	0.09	0.17	0.15	0.73	0.21	0.10
C3	0.23	0.15	-0.05	0.70	0.20	0.11
D10	0.18	0.21	0.33	0.70	0.21	0.00
D12	0.12	0.25	0.14	0.68	0.22	0.05
C20	0.08	0.23	0.33	0.67	0.01	-0.03
D24	0.16	0.13	0.05	0.67	0.31	0.30
D6	0.16	0.21	0.27	0.64	0.20	0.08
F6	0.08	0.18	0.17	0.58	0.13	0.10
C25	0.15	0.00	0.06	0.58	0.31	0.09
B17	0.17	0.26	0.42	0.57	-0.02	-0.06
F5	0.24	0.24	0.34	0.56	0.14	-0.03
C5	0.05	0.20	0.43	0.56	0.11	0.03
D22	0.35	0.18	0.16	0.54	0.25	-0.01
C14	0.19	0.21	0.16	0.51	0.18	0.12
D15	0.18	0.30	0.36	0.51	0.11	0.16
C9	0.21	0.16	0.44	0.51	0.19	0.10
D4	0.18	0.07	0.12	0.51	0.23	0.17
F16	0.04	0.34	0.50	0.51	0.01	0.01
A15	0.20	-0.11	-0.23	0.49	0.20	0.11
C6	0.21	0.27	0.42	0.49	0.11	0.01
C2	0.09	0.18	0.44	0.46	0.02	0.13
D19	0.06	0.30	0.26	0.26	0.64	0.02
C13	0.19	0.08	0.25	0.23	0.62	0.14
F9	-0.01	0.08	0.15	0.25	0.62	0.18
D11	0.17	0.10	0.22	0.13	0.60	0.05
F4	0.30	0.18	0.16	0.35	0.55	-0.01
B18	0.19	0.16	0.17	0.28	0.53	0.19
C16	0.17	0.20	0.32	0.30	0.52	0.36
B9	0.22	0.49	0.16	0.27	0.52	-0.17
B5	0.17	0.38	0.04	0.22	0.52	-0.04
D21	0.21	0.05	0.46	0.28	0.49	0.12
D8	0.26	0.15	0.37	0.30	0.49	0.30
C15	0.22	0.21	0.29	0.22	0.43	0.59
D2	0.36	0.16	0.15	0.10	0.23	0.59
F7	0.22	0.34	0.27	0.26	0.05	0.54
C24	0.32	0.26	0.31	0.13	0.27	0.51
F14	0.45	0.26	0.27	0.24	0.27	0.49

注) 説明された分散の合計 59.41%

表7 2005年3月 Cタイプ (6因子指定)

項目番号	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
F5	0.76	0.13	0.26	0.19	0.01	0.10
D2	0.71	0.24	0.36	0.17	0.29	0.10
F3	0.68	0.30	0.18	0.24	0.17	0.24
F6	0.67	0.19	0.31	0.32	0.22	-0.05
F11	0.67	0.33	0.27	0.20	0.18	0.19
F2	0.66	0.35	0.18	0.24	0.09	0.20
D23	0.66	0.26	0.29	0.14	0.16	0.07
F4	0.66	0.36	0.21	0.14	0.20	0.20
F13	0.66	0.33	0.30	0.24	0.23	0.16
D19	0.65	0.37	0.23	0.19	0.10	0.20
F10	0.65	0.09	0.21	0.24	0.13	-0.11
D7	0.64	0.24	0.35	0.30	0.14	0.11
D3	0.64	0.32	0.42	0.16	0.26	0.16
D22	0.64	0.27	0.21	0.18	0.12	0.10
D1	0.63	0.23	0.40	0.29	0.27	-0.01
D4	0.62	0.20	0.42	0.14	0.36	0.06
F1	0.61	0.26	0.19	0.36	0.00	0.13
F12	0.61	0.06	0.01	0.20	0.24	0.00
F14	0.61	0.26	0.38	0.29	0.14	0.17
D20	0.61	0.36	0.27	0.06	0.26	0.25
D6	0.61	0.32	0.10	0.19	0.22	0.27
F7	0.60	0.40	0.37	0.21	0.17	0.24
D8	0.59	0.26	0.21	0.30	0.22	-0.05
C1	0.58	0.32	0.39	0.15	0.38	0.08
C7	0.56	0.16	0.21	0.32	0.33	0.03
F9	0.54	0.29	0.22	0.23	0.16	0.39
D5	0.54	0.24	0.51	0.24	0.21	-0.01
C3	0.53	0.24	0.05	0.26	0.41	0.15
C16	0.52	0.40	0.43	0.04	0.28	0.36
C12	0.51	0.29	0.17	0.27	0.43	-0.18
D21	0.51	0.26	0.46	0.13	0.30	0.11
C21	0.51	0.40	0.40	0.22	0.31	0.15
C13	0.51	0.38	0.23	0.12	0.50	0.07
C19	0.50	0.10	0.21	0.17	0.31	0.01
C17	0.50	0.28	0.42	0.18	0.45	0.10
D25	0.49	0.21	0.49	0.27	0.23	-0.08
F15	0.49	0.32	0.35	0.34	0.14	0.22
E17	0.49	0.17	0.42	0.33	0.10	-0.11
F8	0.49	0.34	0.25	0.29	0.25	0.15
C2	0.49	0.43	0.40	0.22	0.32	0.00
C15	0.49	0.33	0.36	0.22	0.41	0.14
C11	0.48	0.45	0.27	0.14	0.44	0.06
D15	0.46	0.36	0.36	0.28	0.42	-0.06
B7	0.46	0.36	0.11	0.28	0.31	0.36
A22	0.46	0.38	0.11	0.19	0.30	0.27
C23	0.45	0.29	0.31	-0.01	0.28	0.12
B12	0.45	0.40	0.26	0.35	0.18	0.31
C8	0.45	0.38	0.31	0.24	0.41	0.13

表7 2005年3月 Cタイプ (6因子指定)

項目番号	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
A1	0.18	0.76	0.24	0.24	0.19	0.15
A24	0.19	0.76	0.32	0.16	0.16	0.11
A5	0.19	0.73	0.16	0.36	0.13	0.01
A25	0.22	0.72	0.32	0.16	0.18	0.15
A6	0.29	0.71	0.23	0.41	0.10	0.16
A14	0.30	0.71	0.31	0.31	0.18	0.05
A19	0.34	0.70	0.29	0.19	0.22	0.08
A16	0.36	0.69	0.28	0.16	0.26	0.09
A7	0.29	0.69	0.12	0.41	0.15	0.10
A12	0.30	0.66	0.26	0.31	0.25	0.13
A18	0.24	0.64	0.28	0.30	0.19	-0.02
A13	0.24	0.62	0.19	0.31	0.22	0.17
A2	0.32	0.60	0.30	0.28	0.21	0.07
A10	0.16	0.60	0.27	0.23	0.32	0.16
A15	0.42	0.60	0.15	0.16	0.34	0.00
A9	0.37	0.59	0.19	0.35	0.07	0.04
A3	0.30	0.57	0.10	0.41	0.18	-0.01
A4	0.34	0.56	0.23	0.33	-0.13	0.10
B17	0.27	0.56	0.29	0.29	0.36	0.01
B10	0.28	0.53	0.32	0.25	0.37	0.29
A11	0.25	0.51	0.21	0.40	0.30	-0.03
B16	0.17	0.50	0.17	0.44	0.44	0.21
A23	0.48	0.50	0.15	0.18	0.29	0.18
B9	0.37	0.49	0.28	0.23	0.31	0.31
A17	0.29	0.48	0.15	0.24	0.35	-0.03
B11	0.42	0.48	0.24	0.24	0.25	0.37
B14	0.13	0.48	0.33	0.47	0.18	0.29
B6	0.31	0.48	0.33	0.40	0.25	0.23
A21	0.45	0.47	0.43	0.30	0.17	0.02
F16	0.40	0.47	0.41	0.44	0.10	0.11
B19	0.31	0.45	0.12	0.41	0.26	0.43
E16	0.34	0.25	0.64	0.40	0.04	0.18
E9	0.38	0.30	0.64	0.23	0.20	0.18
D9	0.49	0.31	0.60	0.19	0.19	0.12
C20	0.30	0.33	0.59	0.21	0.25	0.10
E10	0.39	0.35	0.59	0.16	0.16	0.26
D11	0.40	0.38	0.58	0.23	0.25	0.08
D18	0.27	0.32	0.57	0.38	0.24	0.03
D24	0.41	0.29	0.56	0.36	0.02	0.02
D10	0.48	0.44	0.56	0.21	0.10	0.15
C24	0.38	0.34	0.55	0.15	0.38	0.28
D14	0.35	0.34	0.54	0.34	0.25	-0.01
E6	0.38	0.38	0.49	0.30	0.04	0.22
D13	0.42	0.37	0.49	0.22	0.32	0.12
E12	0.45	0.23	0.48	0.37	0.16	-0.07

表7 2005年3月 Cタイプ (6因子指定)

項目番号	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
E1	0.18	0.26	0.27	0.71	0.17	0.04
E3	0.23	0.31	0.29	0.70	0.16	0.08
B20	0.30	0.23	-0.03	0.62	0.18	0.13
B2	0.31	0.39	0.15	0.61	0.11	0.22
B3	0.27	0.46	0.15	0.60	0.23	0.27
B1	0.25	0.50	0.10	0.59	0.18	0.28
E2	0.25	0.34	0.38	0.58	0.14	0.16
B4	0.20	0.40	0.25	0.56	0.21	-0.03
D17	0.25	0.34	0.36	0.56	0.26	0.01
B5	0.37	0.39	0.13	0.55	0.16	0.17
B15	0.21	0.50	0.19	0.53	0.20	0.02
E4	0.38	0.10	0.21	0.53	0.20	-0.02
E5	0.21	0.39	0.34	0.52	0.13	0.27
E15	0.20	0.32	0.49	0.50	0.14	0.14
A8	0.13	0.37	0.24	0.50	0.09	-0.02
E13	0.35	0.24	0.41	0.48	0.12	-0.16
C6	0.34	0.28	0.19	0.22	0.60	0.22
C5	0.49	0.31	0.31	0.19	0.52	0.00
E7	0.35	0.39	0.28	0.31	0.50	0.20
C14	0.45	0.33	0.25	0.30	0.49	0.17
C25	0.47	0.13	0.08	0.34	0.49	0.01
E11	0.28	0.41	0.26	0.33	0.49	0.18
C4	0.43	0.24	0.09	0.33	0.47	0.14
B8	0.36	0.35	0.21	0.24	0.39	0.48

注) 説明された分散の合計 68.76%

表8 2005年3月 Aタイプ (6因子指定)

第1因子 集団適応	
C24	人の気持ちを考えて自分の行動を変える
C18	相手の気持ちを理解しようとする
C16	全体の役にたつ
A23	自然現象を尋ねる
C23	おとなが喜ぶことをする
C2	話を想像して楽しむ
C17	友達の病気がよくなると喜ぶ
C1	友達の喜ぶことをする
C15	困っている子どもにやさしくする
E13	食事の前に手を洗う
D10	責任をもってする
D15	おつりのやりとりをする
D14	じゃまをしない
C10	小さい子をかawaiiがる
C11	登場人物の気持ちが言える
C5	かなしい話をかなしがる
第2因子 生活習慣	
E4	うがいをする
E5	歯をみがく
E15	食事の片づけをする
E2	ひとりで鼻をかむ
E16	所持品の始末をする
E12	“いただきます”や“ごちそうさま”をいう
E1	ソックスをひとりではく
B16	ボタンをかける
D18	順番に使う
E9	自分の遊具をかたずける
D11	しまったことはちゃんとする
第3因子 知的能力	
A24	ひらがなを読む
A1	名を書く
A5	名を読む
A25	ひらがなを書く
A17	かたちのあるものを作る
A13	サイコロの数
A2	“右”と“左”の区別
A14	カレンダーで何日
A16	何曜日か分かる
A11	四角形をかく
第4因子 遊び	
F3	物を積極的に遊びに活用する
F11	おもしろいアイデアを出しあう
F13	新しい役割を考えたり、交換したりして遊ぶ
F1	遊びを見つけて遊び込む
F2	遊びの新しいことを考えだしたりする
F10	そのものになりきって遊ぶ
F5	積極的に仲間に誘う
F4	身辺のものや出来事を遊びを取り入れる
F9	遊びの場所をつくる
第5因子 運動能力	
B10	なわとび
B9	ボールをつく
B12	前まわり
E11	ぞうきんをしぼる
B11	リレー
B8	ボールを打つ
B13	うんてい
E8	自分からぞうきんでふく

表9 2005年3月 Bタイプ (6因子指定)

第1因子 生活習慣	
E4	うがいをする
D17	じゃんけんがわかる
B16	ボタンをかける
E1	ソックスをひとりではく
E15	食事の片づけをする
A8	色の名前
B2	片足とび
E5	歯をみがく
B3	片足立ち
B15	形(紙)を切る
B14	箸で食べる
D16	信号を見て、正しく渡る
B1	しきいの上を歩く
D18	順番に使う
第2因子 知的能力	
A25	ひらがなを書く
A19	時計がわかる
A16	何曜日か分かる
A1	名を書く
A6	指が何本あるか言う
A2	“右”と“左”の区別
A10	誕生日がわかる
A14	カレンダーで何日
A24	ひらがなを読む
A13	サイコロの数
A4	“たて”と“よこ”の区別
A9	100円玉がわかる
第3因子 遊びの積極性	
F3	物を積極的に遊びに活用する
F2	遊びの新しいことを考えだしたりする
E17	挨拶を自分からする
D25	「ありがとう」と感謝する
D20	トラブルの間に入って収拾する
A22	本(図鑑)などでみる
E9	自分の道具をかたずける
F13	新しい役割を考えたり、交換したりして遊ぶ
D23	「いけない」と止める
B4	ブランコ
D9	責任を負う
F8	遊びに集中し、妨げられない
第4因子 集団性・情緒性	
D14	じゃまをしない
C3	できないとくやしがる
D10	責任をもつてする
D12	“わたし”とか“ぼく”という
C20	自分なりに気持ちをおさめる
D24	みんなに合わせて行動する
D6	競争心がある
F6	遊びに欲しいものがあるとき達成しようとする
C25	大切なものが損なわれると悲しがる
B17	ひもを結ぶ
F5	積極的に仲間に誘う
C5	かなしい話をかなしがる
第5因子	
D19	自分の考えをはっきりいう
C13	音を感じ、言葉で表現をする
F9	遊びの場所をつくる
D11	きまったことはちゃんとする
F4	身辺のものや出来事を遊びを取り入れる
B18	片目をつむる
C16	全体の役にたつ
B9	ボールをつく
B5	でんぐり返し
D21	保育者を手伝おうとする
D8	保育者に話して聞かせる

表 10 2005年3月 Cタイプ (6因子指定)

第1因子 遊びの積極性	
F5	積極的に仲間に誘う
D2	ほかの子に助けを求める
F3	物を積極的に遊びに活用する
F6	遊びに欲しいものがあるとき達成しようとする
F11	おもしろいアイデアを出しあう
F2	遊びの新しいことを考えだしたりする
D23	「いけないと」と止める
F4	身近のものや出来事を遊びを取り入れる
F13	新しい役割を考えたり、交換したりして遊ぶ
D19	自分の考えをはっきりいう
F10	そのものになりきって遊ぶ
D7	子どもの発案した遊びをいっしょにする
D3	ほかの子どもを援助、守る
D22	いやなときは「いや」という
D1	ほかの子の承諾をもとめる
D4	ほかの子どもたちに玩具をもってくる
F1	遊びを見つけて遊び込む
F12	泥遊びや砂遊びを楽しむ
F14	協調して遊ぶ
D20	トラブルの間に入って収拾する
D6	競争心がある
F7	自分達で協力して解決する
D8	保育者に話して聞かせる
C1	友達の喜ぶことをする
第2因子 知的・運動的能力	
A1	名を書く
A24	ひらがなを読む
A5	名を読む
A25	ひらがなを書く
A6	指が何本あるか言う
A14	カレンダーで何日
A19	時計がわかる
A16	何曜日が分かる
A7	指の数を数える
A12	数えて配る
A18	人物画を描く
A13	サイコロの数
A2	“右”と“左”の区別
A10	誕生日がわかる
A15	お話のあらすじを話す
第3因子 社会的生活習慣	
E16	所持品の始末をする
E9	自分の遊具をかたずける
D9	責任を負う
C20	自分なりに気持ちをおさめる
E10	皆の遊具をかたずける
D11	きまったことはちゃんとする
D18	順番に使う
第4因子 個人的生活習慣	
E1	ソックスをひとりではなく
E3	大便をひとりでする
B20	60cmとび下りる
B2	片足とび
B3	片足立ち
B1	しきいの上を歩く
E2	ひとりで鼻をかむ
B4	ブランコ

上記の表に示すように、課題活動型（タイプ A）は第 I 因子集団適応、第 II 因子生活習慣、第 III 因子知的能力、第 IV 因子遊び、第 V 因子運動能力、である。中間型（タイプ B）は第 I 因子生活習慣、第 II 因子知的能力、第 III 因子遊びの積極性、第 IV 因子集団性・情緒性、である。自発活動型（タイプ C）は第 I 因子遊びの積極性、第 II 因子知的・運動的能力、第 III 因子社会的生活習慣、第 IV 因子個人的生活習慣、である。

これらの結果から、保育タイプによって保育者の発達評価の軸が異なっていることが明らかである。すなわち課題活動型ではまず活動がクラス全体で行われるところから、集団に適応し、他者に配慮し、集団行動が取れることが発達の重要なポイントとなり、園の生活習慣の形成を基盤としてその先で知的能力や遊びが位置づいていることが推測される。それに対して、自発活動型では自発的な遊びが生活の中心であるため、先ず、遊びの積極性（意欲）が中心となり、次に知的・運動的能力が位置づき、生活習慣がその周辺で捉えられていて、集団への適応性はまともでは考えられていない。さらに、中間型では自発活動と課題活動の両方への適応が必要であるため、先ず両者に共通する生活習慣の形成、次に知的能力が中心になっていると見られる。その先で遊び（自発活動への適応）、集団性（課題活動への適応）がそれぞれ位置づいている。保育実践方法、言い換えると子どもの生活の仕方によって保育者が捉える発達の姿が異なっており、保育の場（集団の規範や雰囲気等）に適応的な能力や態度が「発達」の指標として意識される傾向があるといえよう。

### 考察と今後の課題

以上の結果から、結果の 1 において課題活動型では 5 歳児において子どもの位置の変動が大きく、自発活動型では 3 歳児において変動が大きいことは、結果の 2 の、評価の軸が異なることからある程度説明することができよう。すなわち、課題活動型の第 1 因子の集団適応は一般的な発達傾向として、幼児後期特に 5 歳過ぎに発達する特性である。同様に、自発活動型の第 1 因子の遊びの積極性は 3 歳児辺りで強く現れる特性である<sup>(3)(4)</sup>。その点から、保育者がどの要素に重点を置いてみているかによって、子どもの育ちの変化の見え方が異なっていることが、評価結果に反映していると考えられる。中間型では保育の状況が 2 通りに分かれるため、両者に共通する要因は早い時期に発達していると捉え、逆に質の異なる場面でのそれぞれの要素に関しては発達の变化が捉えられにくいのであろうか。あるいは、実際に子どもが力を出しにくい状況にあるのか、今後さらに個々の子どもに即して検討すべき課題である。

最後に、保育者の評価軸に違いが生じていることについて若干の考察をする。教育（保育）はねらいをもっておこなわれており、保育の評価はねらいに即して行われる。したがって各園の保育方針やねらいによってその時々保育展開が異なり、そこでの保育者の子どもへの評価が生じることは当然である。しかし、教育（保育）が本来目指すところは、いかなる方法によっても子どもの調和的な発達であり、個々の子どもに内在する力の最大の伸長である。また、本研究で行っている発達評価は、その時々保育のねらいに関係しての子どもへの評価ではなく、客観的な個々の独立した発達項目に関する評価である。それにもかかわらず評価軸と評価結果の双方に園タイプ差がかなり明瞭にあることは、客観的な子どもの発達評価への実践内容の影響が強いことが考えられる。

近年、「学習」を成立させるものを、実践共同体における「状況的学習」という視点が提示されている<sup>(5)(6)</sup>。こうした立場の『『心的構造』の代わりに『社会的行為』を分析の中心におき、実践的な活動を軸にして分析する、・・・心的構造という発想を支える暗黙の前提を再文脈化する』(5. p143) という方向から考察することも視野にいれて、保育者の保育実践と幼児の評価方法との関連、さらに子どもの育ちの過程を生活集団としての保育の場との関連で考察することを今後の課題としていきたい。

#### 参考文献

- (1) 関口はつ江 長田瑞恵 野口隆子 『幼稚園における保育方法と保育者による発達評価の関連(1)』 十文字学園女子大学人間生活学部紀要 第3巻 1-13 2005
- (2) 関口はつ江 『幼稚園における保育方法と保育者による発達評価の関連にする予備的研究』 十文字学園女子大学人間生活学部紀要 第1巻 27-40 2003
- (3) 日本保育学会 『日本の幼児の精神発達』 フレーベル館 1970
- (4) 田中敏明編著 『子どもの園生活と成長の姿—3歳から6歳まで』 ミネルヴァ書房 2000
- (5) ジーン・レイブ エティエンヌ・ウェンガー 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—』 産業図書 1993
- (6) 松井剛太 七木田敦 『ポートフォリオの作成を通じた幼児の発達評価に関する研究—自閉症児の事例を通じた考察—』 日本保育学会第59回大会発表論文集 560-561 2006